

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/27 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	30.2 °C	4.2 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	38.1 °C	5.45 kPa g	A系： 0.03 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.3 m ³ /h	36.3 °C	0.22 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/27 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	29.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	27.8 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	28.5 °C ※2
4号機	循環冷却システム	運転中	26.8 °C

※1 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドへの注水を適宜実施。

※2 3号機使用済燃料プール代替冷却システム停止中の為、燃料プール水温度に関しては至近のデータを記載。(8/25 5:00 現在)

【4号機】

・8/25 4:53～ 使用済燃料プール代替冷却系について、当該系の循環冷却設備一次系フレキシブルチューブの交換等を行うため、冷却を停止(停止時プール水温度:27.3°C)。停止期間は約 60 時間を予定。また、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

8/26 18:37 当該作業が終了したことから、使用済燃料プール代替冷却系を起動。運転状態について異常はない。なお、起動後、系統水張りを同日 18:53 から 21:56 まで実施。現在、使用済燃料プール水温度は 27.7°C であり、停止時の 27.3°C からの上昇は運転上の制限値(65°C)に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	→	1号機廃棄物処理建屋	8/27 9:54～ 移送実施中
2号機	2号機 タービン建屋	→	3号機タービン建屋	8/27 10:37 ～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	8/19 16:18 ～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (8/27 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/8/20～ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/8/23 構内汐見坂から3号機タービン建屋に向かう路上に、車両から漏えいした油と思われる滴下跡があることを協力企業作業員が確認。その後、16:02に一般回線にて双葉消防本部へ連絡。現場調査の結果、油と思われる滴下があった範囲は、汐見坂を上った先の No.2ろ過水タンクから3号機タービン建屋までの路上に点在しており、当該箇所については吸着剤の散布を実施。引き続き当該車両の特定作業を行っていく。その後、車両の特定作業を行った結果、オイルフィルタが変形し、エンジンオイルが減少している車両を確認したことから、この車両を油の漏えいした車両と判断。なお、変形したオイルフィルタについては交換を実施し、当該箇所の修理を完了。
- ・H26/7/28～ 1号機では、現在、原子炉压力容器ヘッドスプレイライン(以下、RVHライン)より原子炉压力容器(以下、RPV)内への窒素封入を行っているが、ジェットポンプ計装ラックラインを用いたRPV内への窒素封入試験を実施。まず、7/28から8/5にかけて、試験ライン14本において1ライン毎に、総封入量 $30\text{Nm}^3/\text{h}$ を変えず、RVHラインから $20\text{Nm}^3/\text{h}$ 、試験ラインから $10\text{Nm}^3/\text{h}$ を封入し、ドライウェル圧力等プラント状態に変動がないことを確認(STEP1)。次に、8/20から8/27にかけて、RVHラインから管理目標値 $11\text{Nm}^3/\text{h}$ 、選定した2本の試験ラインから $19\text{Nm}^3/\text{h}$ を連続封入し、ドライウェル圧力等プラント状態に変動がないことを確認(STEP2)。
 - 8/27 11:02 試験ラインの健全性を確認し、窒素封入試験を終了。窒素封入試験中において、プラントパラメータ等の数値に有意な変動はない。なお、試験後の窒素封入状況については、試験実施前の窒素封入量に戻した。(RVHライン窒素封入量: $30\text{Nm}^3/\text{h}$)

下線部の記載を変更しております(平成26年8月27日訂正)。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

【H4,H6エアータンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エアータンク周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エアータンク周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。